

V. 技術者養成

1. 技術人材養成事業

1-1 技術研修事業

〔目的〕 新製品の開発や生産技術の向上を図るため、企業の技術者や後継者を受入れて研修する。

研修内容	研修期間	事業所名	担当者
色釉（ブルー、ピンク系）の調合技術	平成19年4月9日～7月6日	(有)齊山製陶所	吉田 英樹
	平成19年7月9日～10月5日		
	平成19年10月9日～12月28日		
	平成20年1月7日～3月28日		
熱伝導率測定装置	平成19年4月17日	大村セラテック(株) (2名)	高松 宏行
	平成19年4月17日		
フーリエ変換赤外分光光度計	平成19年4月19日	中興化成工業(株)	高松 宏行
	平成19年5月11日	(株)ニッチツハイシリカ 事業本部	
鋳込型の作製生地成形技術	平成19年4月24日～4月25日	野島建設(有)	兼石 哲也
レーザー回折式粒度分布測定装置	平成19年5月15日	聖栄陶器(有)	木須 一正
釉薬・青磁釉	平成19年6月25日～9月21日	個人	吉田 英樹
アルミナ強化磁器の製造プロセス及び評価試験	平成19年7月23日～8月3日	長崎県立佐世保工業高等学校	秋月 俊彦
走査型電子顕微鏡	平成19年9月10日～9月11日	(株)ツジデン	高松 宏行
フーリエ変換赤外分光光度計	平成19年9月10日～9月11日	(株)ツジデン	高松 宏行
鉛溶出試験	平成19年9月26日～9月27日	(有)孔明窯	木須 一正
蛍光X線分析装置	平成19年11月1日	(株)中央環境	木須 一正
	平成20年1月15日	長菱エンジニアリング(株)	木須 一正
粉末X線回折装置	平成19年12月18日	(株)ツジデン (2名)	山口 典男
	平成19年12月18日		
走査型電子顕微鏡	平成20年1月16日	佐世保工業高等専門学校	高松 宏行

1-2 セミナー事業

〔目的〕 技術情報、デザイン情報の迅速な提供及び技術革新に対応できる意識改革を図るためのセミナー等を実施する。

(1)

テ	ー	マ	皿物・袋物・施釉技法			
期		日	平成19年8月30日			
概		要	長年にわたって日本陶器株式会社で施釉に携わってこられた橋本氏を講師に、施釉現場の技術向上、ひいては製品の付加価値向上に役立つ施釉技術について実演・指導。			
講		師	橋本 ひとみ（元日本陶器㈱ 若宮工場）			
受	講	者	28名	担	当 者	陶磁器科 河野 将明

(2)

テ	ー	マ	儲かる！情報化時代の経営戦略			
期		日	平成19年9月26日			
概		要	情報技術の活用が、個人・企業の諸活動において重要性を帯びてきています。本セミナーでは、経営者が持つビジョンの重要性とともに、インターネットや携帯電話を利用したこれからの販売戦略の方法等について事例を交えて講演。			
講		師	竹下 幸也（DMD「竹下塾」主宰）			
受	講	者	17名	担	当 者	研究開発科 久田松 学

(3)

テ	ー	マ	マイクロ波を利用した焼成技術とその実用化			
期		日	平成19年10月23日			
概		要	マイクロ波加熱は、従来の加熱方法に比べて熱効率が高く、短時間で加熱できるなどの特徴をもっており、次世代の加熱技術として注目を集めている。マイクロ波焼成技術とは？をはじめ、陶磁器からセラミックス電子部品に至るまでの実用化動向について、事例を交えて講演。			
講		師	尾関 文仁（美濃窯業株式会社）			
受	講	者	5名	担	当 者	陶磁器科 秋月 俊彦

(4)

テ	ー	マ	漆喰（しっくい）の技術革新とわが社の戦略			
期		日	平成19年11月5日			
概		要	平成19年度「ものづくり日本大賞内閣総理大臣賞」を受賞された田川産業の行平社長を講師に、自社技術の革新による新製品開発や産学官連携による開発戦略について講演。			
講		師	行平 信義（田川産業㈱ 代表取締役社長）			
受	講	者	20名	担	当 者	研究開発科 阿部 久雄

(5)

テ	ー	マ	遠赤外線放射体の基礎と応用－新しい活用事例の紹介				
期		日	平成19年11月28日				
概		要	遠赤外線に関する情報が氾濫している中で、正しい知識を得ることを目的とし、遠赤外線の基礎的な性質から最近の新しい研究事例（乳がん検診法への活用例）までを紹介。				
講		師	吉村 昇（秋田大学 工学資源学部 教授）				
受	講	者	13名	担	当	者	研究開発科 山口 典男

(6)

テ	ー	マ	波佐見ブランド化への方策				
期		日	平成20年2月22日				
概		要	近年ますます重要になってきているマーケティングの考え方や地域ブランド構築についてマーケティングの視点から事例を交えて講演。また、講演終了後、県立大の先生方と参加者との意見交換を実施。				
講		師	山口 夕妃子（長崎県立大学 流通・経営学科准教授）				
受	講	者	23名	担	当	者	研究企画課 武内 浩一

(7)

テ	ー	マ	水環境再生を必要とする閉鎖性水域対策の方向性				
期		日	平成20年2月26日				
概		要	長崎県の代表的な閉鎖性水域である大村湾、諫早干拓調整池の水質浄化の今後の方向性について、全国的な排水規制の動きや排水処理技術の現状などの事例を紹介しながら講演。				
講		師	稲森 悠平（福島大学 教授）				
受	講	者	22名	担	当	者	研究開発科 高松 宏行

(8)

テ	ー	マ	「挑戦する日本の地場産業」 －低成長時代に元気に活躍する地場産業と新しい価値軸「感性」を考える－				
期		日	平成20年3月6日				
概		要	平成19年度に経済産業省の事業としてはじまった「感性価値創造イニシアティブ」の策定委員でもある山村氏に、第4の価値軸である『感性』と商品開発について、これまでに実施された事例と長崎県における取り組みや方向性について。				
講		師	山村 真一（㈱コボ 代表取締役社長）				
受	講	者	29名	担	当	者	研究開発科 桐山 有司

(9)

テ　　マ	これからのやきもの—現代におけるものづくりの意味を考える—		
期　　日	平成19年9月13日、10月3日、11月10日、12月5日（4日間）		
概　　要	陶磁器業界を取り巻く環境は、グローバル化の進展が著しく、今後ますます「デザイン力」「造形力」が必要となっています。セミナーでは、社会や暮らしとの関係の中でのモノ作りの考え方、見方、あるいは表現方法を4回シリーズで学びます。 第1回 事例に見る表現 第2回 参加者の仕事（焼き物）を持ち寄って 第3回 世界のモノ作りの事例研究（ワークショップ） 第4回 これからのモノ作りと産地のあり方		
講　　師	城谷 耕生（STUDIO SHIROTANI 代表）		
受　講　者	92名（延べ数）	担　当　者	陶磁器科 兼石 哲也 （波佐見陶磁器工業協同組合共催）



講演会セミナー

1-3 技術普及促進事業

〔目的〕 無機系材料を活用した新事業・新産業の創出を図るため、県内各地で技術交流会を開催する。

期 日 ・ 場 所	平成19年6月6日 長崎県産業振興財団 佐世保事業所
内 容	佐世保市の異業種交流組織である「ベンチャーサロン佐世保」の会合に参加して、当所が開発した技術で、商品化に向けて窯業以外の企業の協力が必要な製品について内容を説明し、会員企業からの意見を聞いた。
参 加 者	9名
担 当 者 （出席者）	武内 浩一

1-4 無鉛絵具普及対策事業

〔目的〕 上絵具の無鉛化に対応するため、市販無鉛上絵具の整備を図ると共に、普及のための研修会を開催する。また、無鉛絵具に関する開発及び利用状況調査のため、無鉛絵具を開発、販売している陶磁器産地の現地調査と市販品の分析及びサンプル作成を行う。

1-4-1 講演会

(1)

テ	マ	新しい食品衛生法について		
期	日	平成19年10月9日		
概	要	新食品衛生法における鉛・カドミウムの溶出基準案等の内容紹介		
講	師	荻野 剛弘（日本陶業連盟 専務理事）		
受	講	者	担	当
		39名	者	陶磁器科 兼石 哲也

(2)

テ	マ	美濃地区における無鉛絵具開発の現状と利用状況		
期	日	平成19年11月2日		
概	要	美濃地区で取り組んでいる無鉛絵具や洋絵具の利用状況と今後の方向性		
講	師	水野 敬介（㈱カネ水 水野絵具製造所 技術部長）		
受	講	者	担	当
		22名	者	陶磁器科 兼石 哲也

1-4-2 講習会

テ	マ	無鉛絵具による絵付け実習		
期	日	平成19年11月15日、11月22日、11月29日、12月7日（4日間）		
概	要	無鉛絵具による溶き起こしから運筆（赤、描き黒、盛り絵具）までの実習		
講	師	岩永 千穂子（佐賀県立有田窯業大学校 非常勤講師）		
受	講	者	担	当
		9名	者	陶磁器科 兼石 哲也

2. 学生実習（インターンシップ等）受入

(1)

実習生	波佐見町内の中高生（19名）
期 日	平成19年5月29日
実習内容	やきもの文化体験の一環としてトッテン土を利用した陶土作製を行った
担 当 者	山口 英次

(2)

実習生	県立長崎工業高等学校（42名）
期 日	平成19年11月29日
実習内容	新しい技術の研究や陶磁器産業の現状についての講義及び分析装置などの見学等
担 当 者	武内 浩一、兼石 哲也、秋月 俊彦、吉田 英樹、狩野 伸自、河野 将明

(3)

実習生	県立波佐見高等学校（156名）
期 日	平成19年12月10日
実習内容	陶磁器染付けの加飾（素地への下絵付け）実習及びセンター見学
担 当 者	久田松 学、桐山 有司、狩野 伸自、山口 典男、高松 宏行、秋月 俊彦、吉田 英樹、小林 孝幸、山口 英次

(4)

実習生	向陽高等学校（6名）
期 日	平成20年3月7日
実習内容	インターンシップとして電子顕微鏡実習、その他
担 当 者	阿部 久雄、久田松 学、高松 宏行

(5)

実習生	波佐見中学校（2名）
期 日	平成20年3月11日～3月13日
実習内容	テストピースの作製と干支作りを行い、陶磁器製造における職場体験を行った
担 当 者	久田松 学